

ライフラインを支える使命

決算説明会

令和4年5月期

 前澤工業株式会社

証券コード：6489

I	企業概要	3
II	中期経営計画業績推移	11
III	令和4年5月期 決算概況	15
IV	令和5年5月期 業績予想	20
V	トピックス	29

I	企業概要	3
II	中期経営計画業績推移	11
III	令和4年5月期 決算概況	15
IV	令和5年5月期 業績予想	20
V	トピックス	29

創業	1937年(昭和12年)7月15日
設立	1947年(昭和22年)9月26日
資本金	52億3,371万円
発行済株式数	21,425,548株(単元株数100株)
代表者	代表取締役社長 宮川 多正
主な事業内容	上・下水道用機器・装置の製造・販売および施工
本社	埼玉県川口市仲町 5-11
本店	東京都中央区新川 1-5-17
連結子会社	(株)前澤エンジニアリングサービス
従業員	連結 1,021名 単体 723名

令和4年5月31日現在

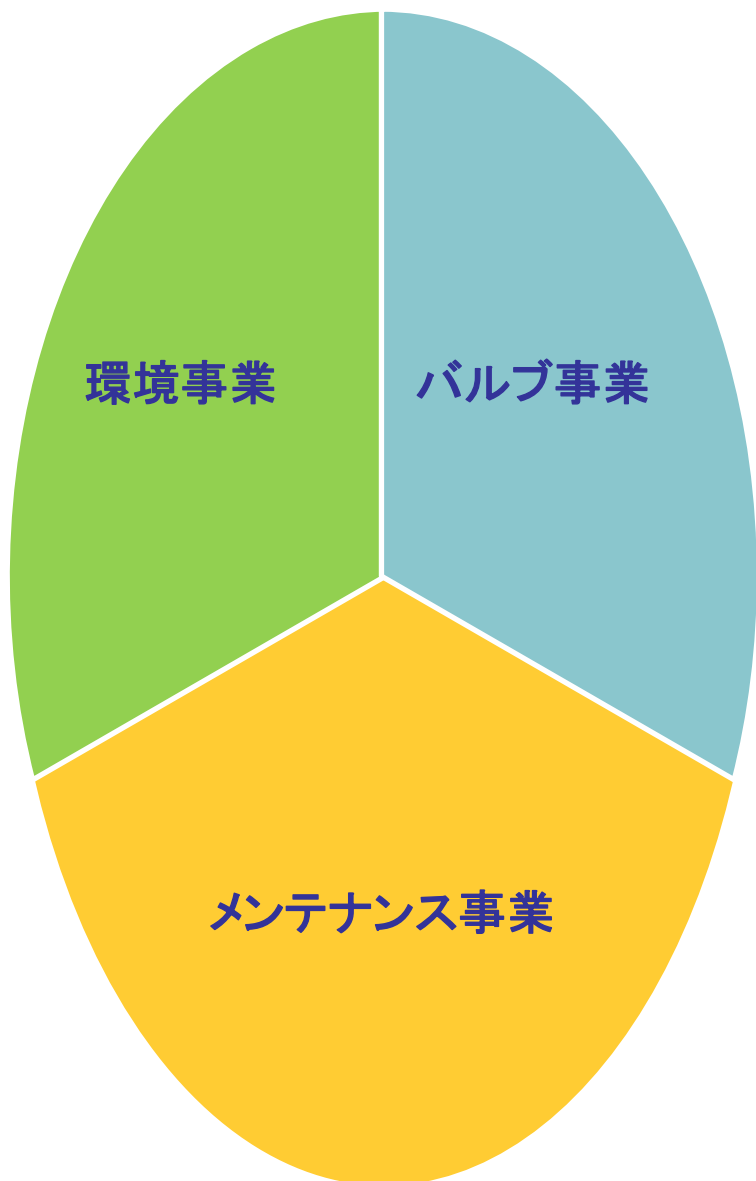
経営理念

水とともに躍進し 人間らしさをもとめ 社会に貢献できる魅力ある企業

当社事業

概要

主な製品・システム



環境事業

- ◆上水道・簡易水道
工業用水道施設
- ◆下水道・農業集落排水処理施設
- ◆バイオガスプラント
- ◆産業用水処理設備

浄水処理機械設備
高度浄水処理機械設備
膜処理浄水設備、MIEX®処理システム
沈砂池機械設備、水処理機械設備
汚泥処理機械設備
畜産系バイオガスシステム
食品残渣系バイオガスシステム
排水処理設備

バルブ事業

- ◆バルブ類
- ◆ゲート類
- ◆その他

仕切弁、ソフトシール弁、空気弁
ボール弁、汚泥引抜弁、バタフライ弁
流量制御弁、緊急遮断弁、逆止弁
地上式消火栓、地下式消火栓
制水扉、可動堰
ダクタイル鋳鉄製異形管

メンテナンス事業

- ◆バルブ・ゲート類
上下水機械類保守点検
維持修繕、改善、更新、O&M
- ◆飼料・肥料販売事業

緊急遮断弁点検、ゲート点検・修繕
除塵機点検、浄水処理機器整備、
下水処理機器整備、更新工事
集落排水処理施設機能強化
MSミネラソ



みず じゅん かん ささ せい ひん
水循環を支えるマエザワの製品マップ



- 沈砂池機械設備
- 水処理機械設備
- 汚泥処理機械設備
- 維持管理・メンテナンス

- 着水井
- 前処理設備
- 魚躍ろ過設備
- 薬品注入設備
- 凝集沈でん設備
- 高度浄水処理設備
- 膜ろ過設備

- DBO・PFI事業への取組みと、官民連携(PPP)への貢献
- EPC事業・O&M事業

- 着水井
- 前処理設備
- 薬品注入設備
- 凝集沈でん設備

環境事業関連



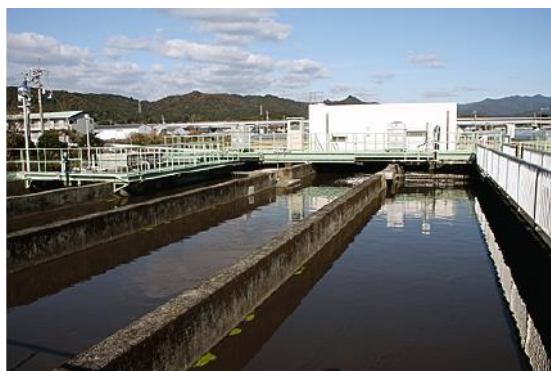
PTFE膜ろ過装置



MIEX®処理システム



バイオガスプラント



OD法における二点DO制御システム



回転兎雷也

バルブ事業関連



更新対応型ゲート



ユニット型ピンラック式除塵機

メンテナンス事業関連



ゲート不断水工法

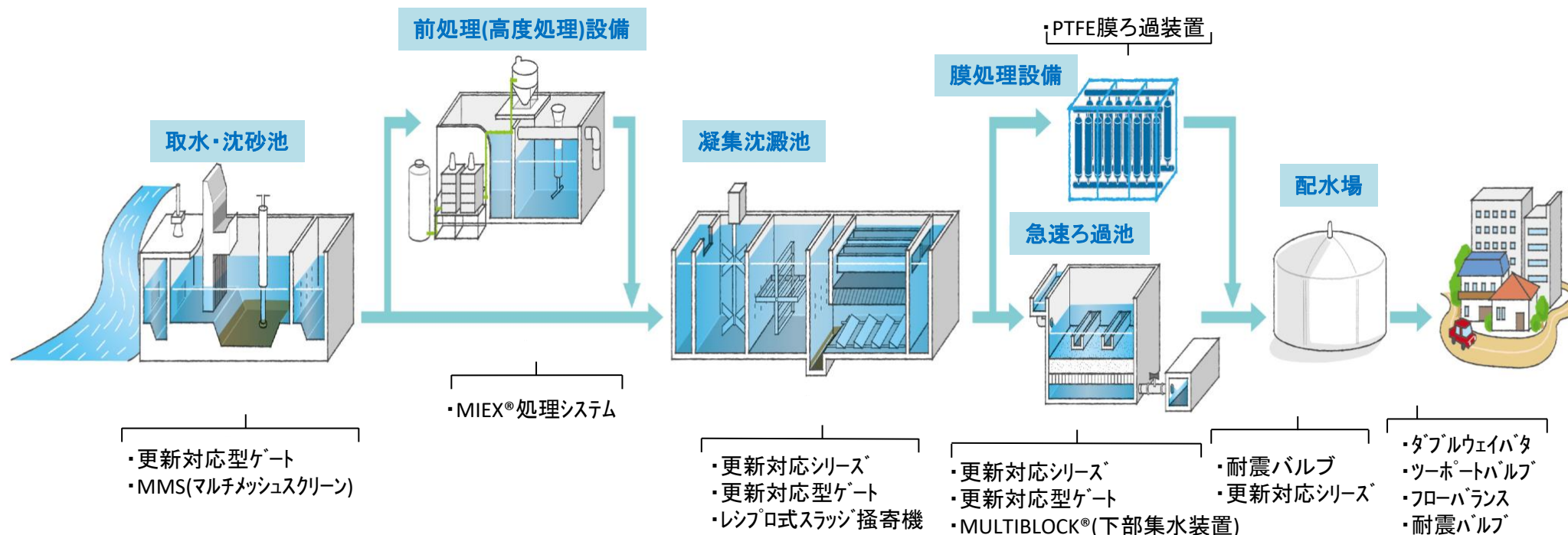


更新バタフライ弁

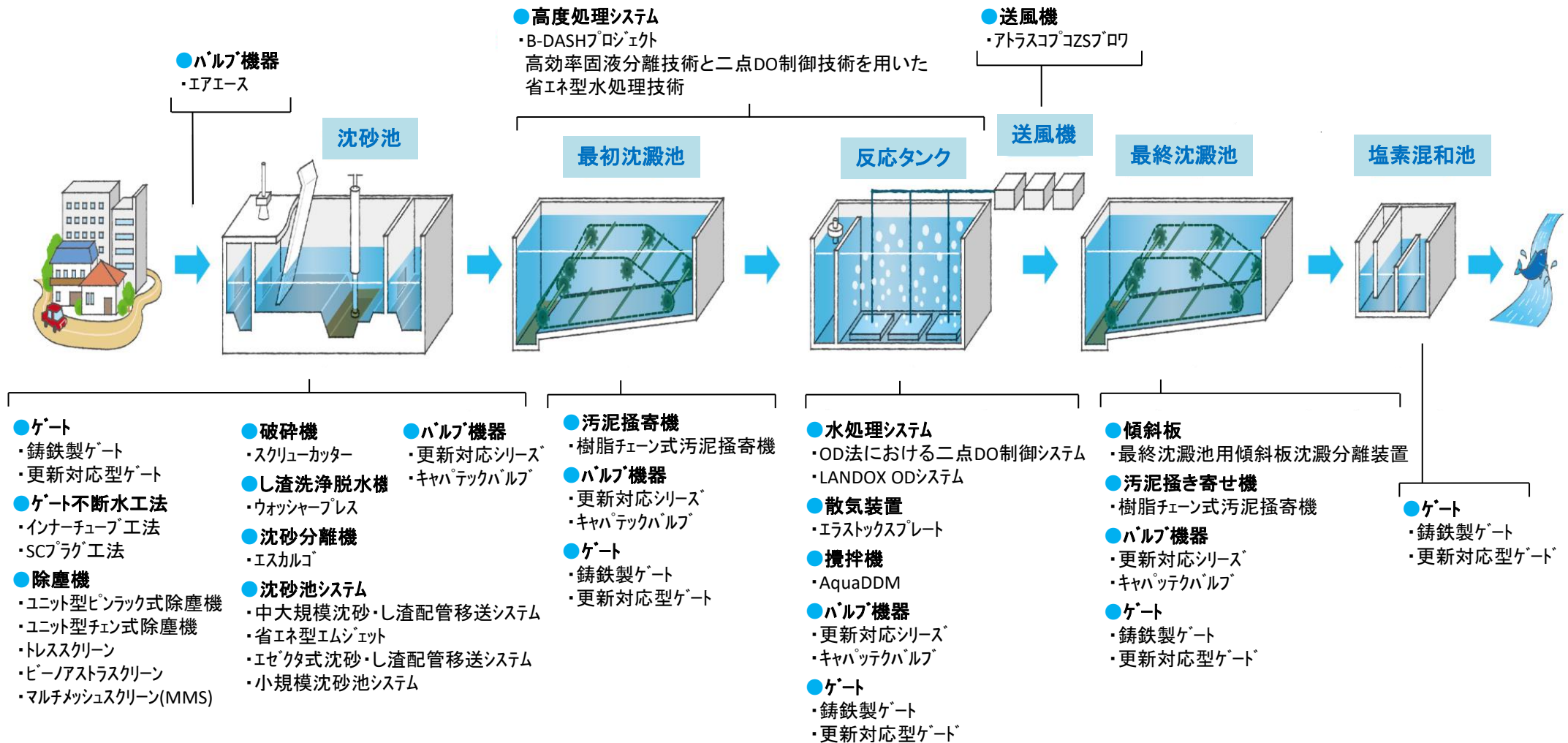


更新マディハイバルブ

上水処理の流れ



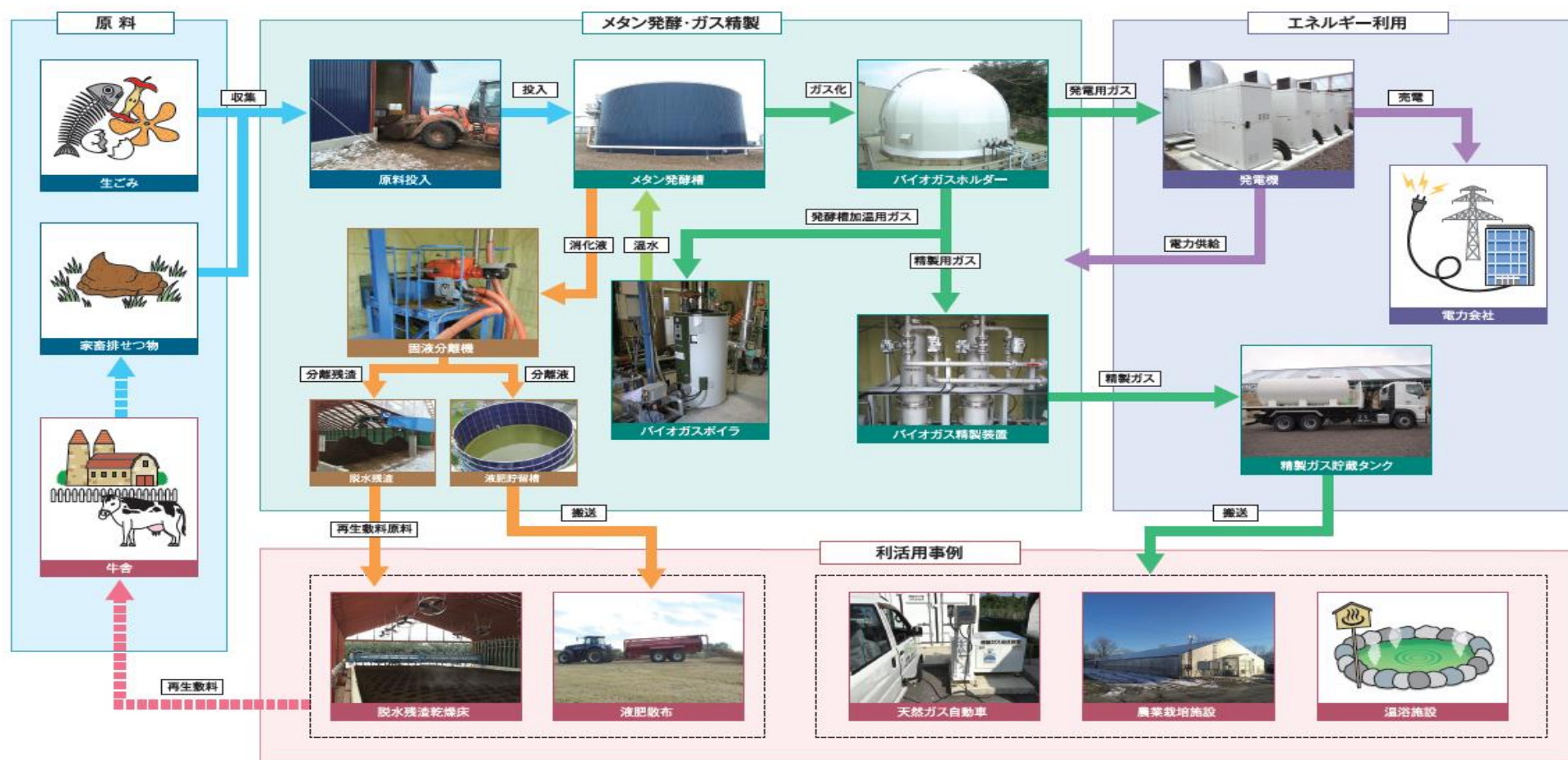
下水処理の流れ



マエザワ・バイオガスシステム

食品残さや乳牛が排出するふん尿をバイオガス技術で処理することにより、

- 発生したバイオガスを電気や熱に変換して**再生可能エネルギー**として活用し、**カーボンニュートラル・脱炭素社会に貢献**します。
- メタン発酵処理により**廃棄物発生量を減少**させ、液肥や牛の寝床として利用される**再生敷料等良質な有機質資源**として活用できます。



I	企業概要	3
II	中期経営計画業績推移	11
III	令和4年5月期 決算概況	15
IV	令和5年5月期 業績予想	20
V	トピックス	29

中期経営計画 (令和3年度～令和5年度)

スローガン : 「 新たな成長への飛躍 」

基本方針 : 将来にわたり持続的な成長を遂げ、社会に貢献し続けられる企業グループをめざし、礎となる経営基盤を強化するとともに、変化する事業環境への対応と効率化による収益力の向上を推進していきます。

重点施策

1. 事業領域の拡充

(1) 再エネ・省エネ技術の拡充と展開

バイオガスプラント技術を核とした再生可能エネルギー事業への参画および上下水道事業における省エネ性能に優れた技術の開発、普及に取り組んでいく。

(2) 官民連携事業の推進

デザインビルドや包括委託などの官民連携事業に積極的に取り組んでいく。

(3) ASEAN地域における水インフラビジネスの基盤づくり

ASEAN地域を中心に特長あるバルブ製品や水処理技術の海外展開を図っていく。

2. 収益基盤の強化

(1) 顧客ニーズを捉えた技術開発と更新提案

顧客ニーズや課題に応える技術開発および当社の優位性ある製品、特長ある水処理システムを活かした更新提案を強化していく。

(2) 生産の効率化と現場力の強化

製造、プラント施工、サービスにおける生産体制、工程管理および品質管理の強化に取り組んでいく。

(3) メンテナンス事業の拡大

バルブ・ゲートおよびプラント機器のメンテナンス技術を活かした付加価値の高いサービスを展開していく。

3. 持続的成長を支える経営基盤の強化

(1) 人材育成と働きがいのある職場づくり

企業の持続的な成長を担う人材を確保・育成するとともに、女性社員活躍推進に継続的に取り組むなど働きがいのある職場を作っていく。

(2) 生産性と付加価値向上に向けたDXの推進

DX(デジタル・トランスフォーメーション)による企業価値向上を目指し、生産性向上および新たな価値創造の手段としての可能性を探っていく。

(3) 環境負荷低減に貢献する事業活動の推進

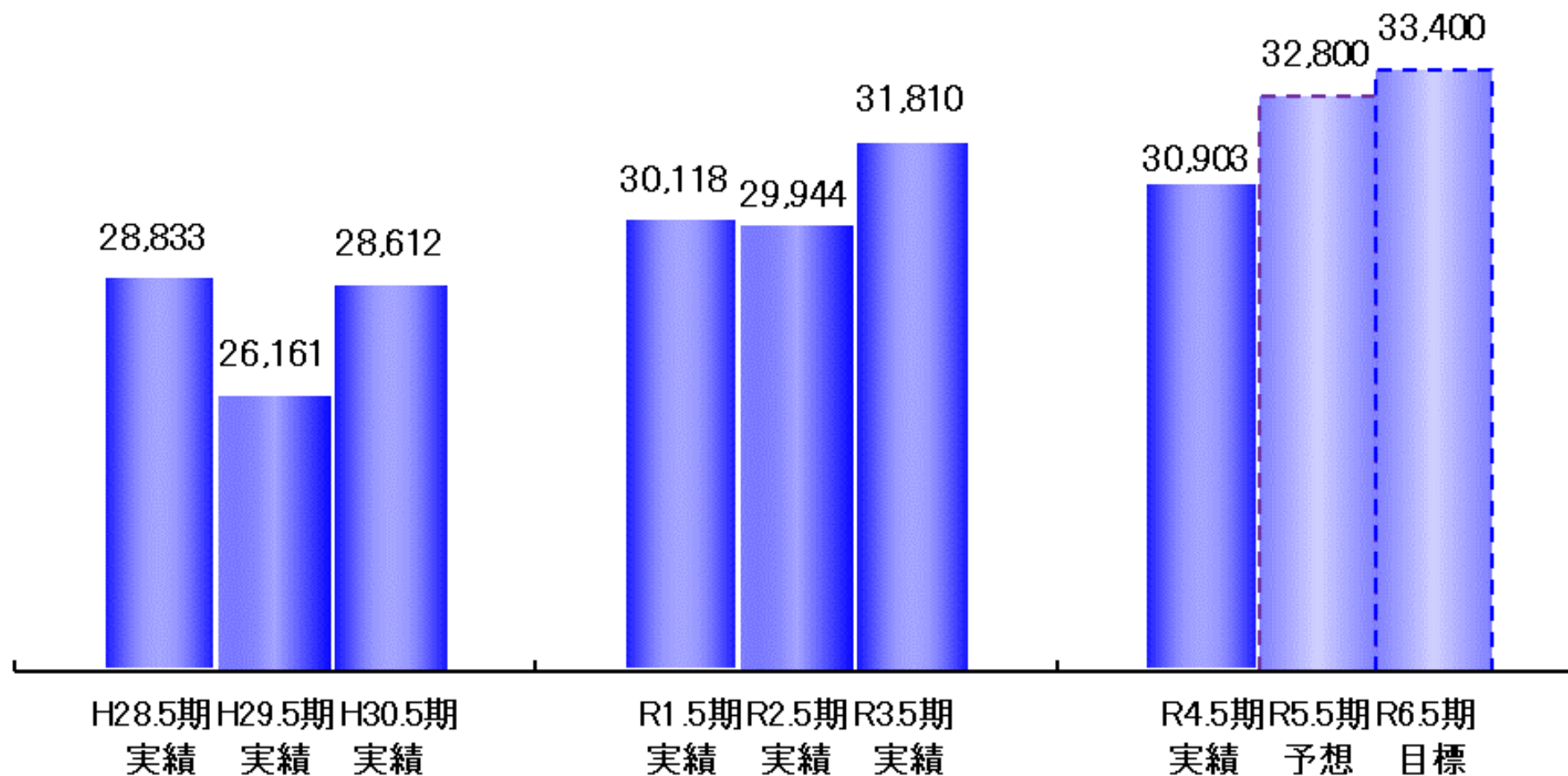
低炭素・循環型社会の実現に向けて、SDGsへの取り組みをはじめ事業活動における環境負荷低減に努めていく。

(4) ガバナンス機能の充実

企業の健全な経営と持続的な成長に向けて、コンプライアンスの推進、安全管理を含めたリスクマネジメント、企業情報発信ならびに本社機能の充実を図っていく。

(単位:百万円)

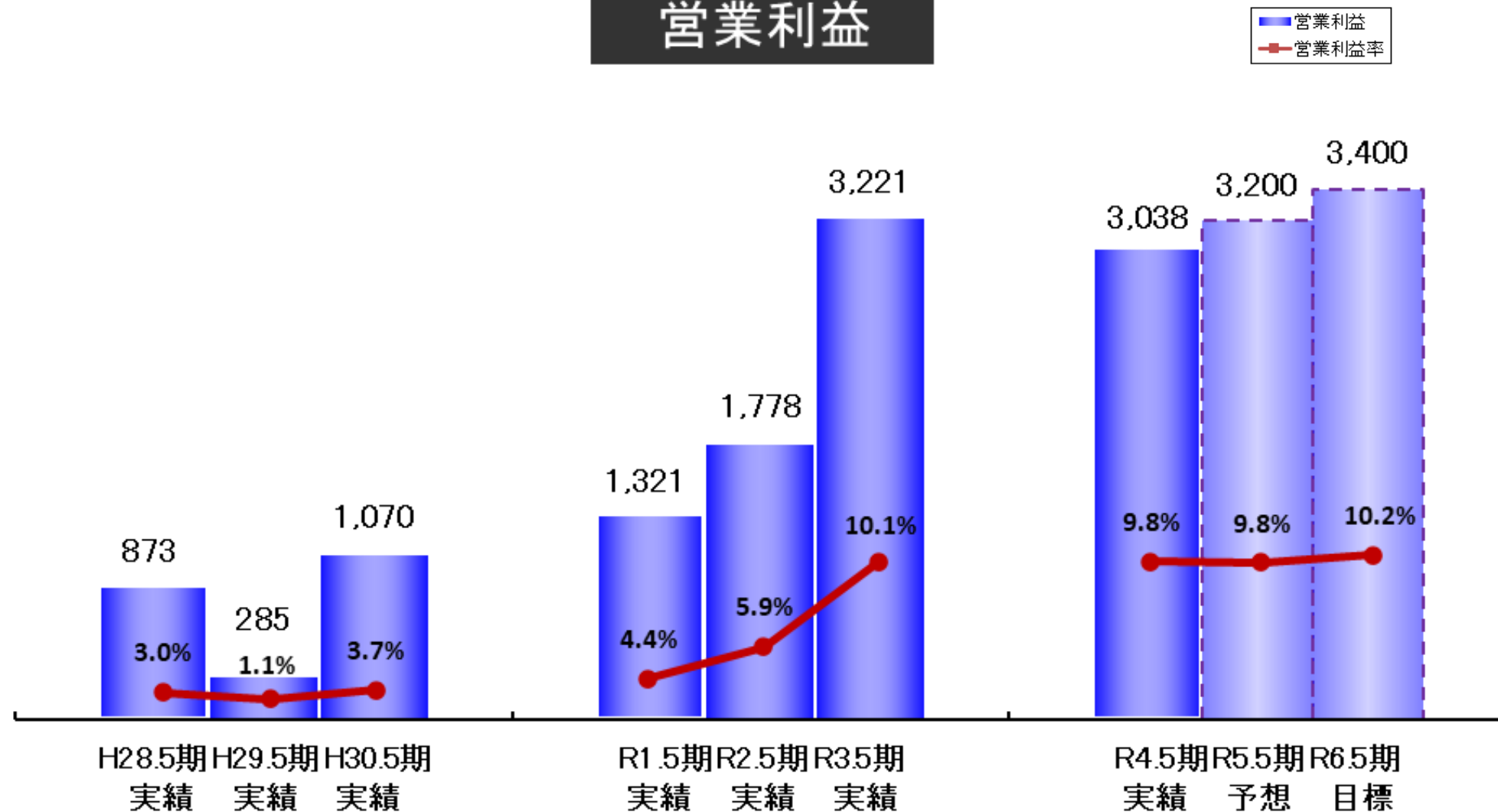
売上高



中期3ヵ年経営計画
(令和3年度~令和5年度)

(単位:百万円)

営業利益



中期3ヵ年経営計画
(令和3年度~令和5年度)

I	企業概要	3
II	中期経営計画業績推移	11
III	令和4年5月期 決算概況	15
IV	令和5年5月期 業績予想	20
V	トピックス	29

(単位:百万円)

	R3. 5期 実績	R4. 5期 期初予想	R4. 5期 実績	前期比		期初予想比	
				金額	増減率	金額	増減率
受注高	33,443	29,000	29,933	△3,509	△10.5%	+933	3.2%
売上高	31,810	31,000	30,903	△907	△2.9%	△96	△0.3%
営業利益	3,221	2,600	3,038	△183	△5.7%	+438	16.9%
経常利益	3,378	2,700	3,164	△213	△6.3%	+464	17.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,489	1,800	2,142	△347	△14.0%	+342	19.0%

業績ハイライト(前期比)

- 受注高は当期堅調に案件を獲得し期初予想を達成するも、ここ数年好調だった反動で 前期比 35.0億円減少。
- 売上高は環境事業において前年度の大型案件の進捗に伴う売上の反動もあり 前期比 9.0億円減少。
- 営業利益は売上減少もあり 前期比 1.8億円減少。

(単位:百万円)

	R3. 5期	R4. 5期	R4. 5期	前期比		期初予想比	
	実績	期初予想	実績	金額	増減率	金額	増減率
	金額	金額	金額				
受注高	33,443	29,000	29,933	△3,509	△10.5%	+933	3.2%
環境事業	12,991	8,600	9,395	△3,595	△27.7%	+795	9.3%
バルブ事業	10,299	10,100	10,116	△183	△1.8%	+16	0.2%
メンテナンス事業	10,151	10,300	10,421	+270	2.7%	+121	1.2%
売上高	31,810	31,000	30,903	△907	△2.9%	△96	△0.3%
環境事業	11,257	10,600	10,443	△813	△7.2%	△156	△1.5%
バルブ事業	10,280	10,000	10,133	△146	△1.4%	+133	1.3%
メンテナンス事業	10,273	10,400	10,325	+52	0.5%	△74	△0.7%
セグメント利益	3,106	2,510	2,917	△189	△6.1%	+407	16.2%
環境事業	465	20	104	△360	△77.5%	+84	424.4%
バルブ事業	961	740	879	△82	△8.6%	+139	18.8%
メンテナンス事業	1,679	1,750	1,933	+254	15.1%	+183	10.5%

業績ハイライト(前期比)

環境事業

受注高は堅調に案件を獲得も、ここ数年好調だった反動で 35.9億円減少。売上高は着実に受注残案件を進捗させるも 8.1億円減少。セグメント利益は売上の減少に伴い 3.6億円減少。

バルブ事業

受注高は 1.8億円減少。売上高は 1.4億円減少。セグメント利益は売上の減少に伴い 0.8億円減少。

メンテナンス事業

受注高は堅調に案件を獲得し 2.7億円増加。売上高は 0.5億円増加。セグメント利益は好採算案件の売上があり 2.5億円増加。

(単位:百万円)

	R3. 5期末		R4. 5期末		前期末比		主な増減要因
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
資産合計	35,767	100.0%	35,626	100.0%	△140	△0.4%	
流動資産	25,442	71.1%	25,694	72.1%	+252	1.0%	現預金:596 棚卸資産:△608 未収入金(消費税還付):113
有形固定資産	7,020	19.6%	6,936	19.5%	△84	△1.2%	設備投資:486 減価償却費:△523
無形固定資産	49	0.1%	58	0.2%	+8	17.3%	投資:24 減価償却費:△16
投資その他の資産	3,254	9.1%	2,936	8.2%	△317	△9.8%	投資有価証券:△297
負債合計	14,971	41.9%	13,649	38.3%	△1,322	△8.8%	
流動負債	12,289	34.4%	11,048	31.0%	△1,241	△10.1%	仕入債務:△187 借入金:△374 契約負債:△173 未払賞与:△251
固定負債	2,681	7.5%	2,600	7.3%	△81	△3.0%	社債:△120 退職給付に係る負債:95
純資産合計	20,795	58.1%	21,977	61.7%	+1,181	5.7%	

(単位:百万円)

	R4. 5期	主な要因等
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,316	税金等調整前当期純利益: 3,094 減価償却費: 548 棚卸資産の減少: 607 仕入債務の減少: △232 未払賞与の減少: △251 法人税等支払額: △1,024
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 441	有形固定資産取得: △428
フリー・キャッシュ・フロー	1,875	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,278	長期借入の減少: △386 社債の減少: △120 自己株式の増加: △288 配当金支払: △449
現金及び現金同等物の期末残高	10,188	

I	企業概要	3
II	中期経営計画業績推移	11
III	令和4年5月期 決算概況	15
IV	令和5年5月期 業績予想	20
V	トピックス	29

(単位:百万円)

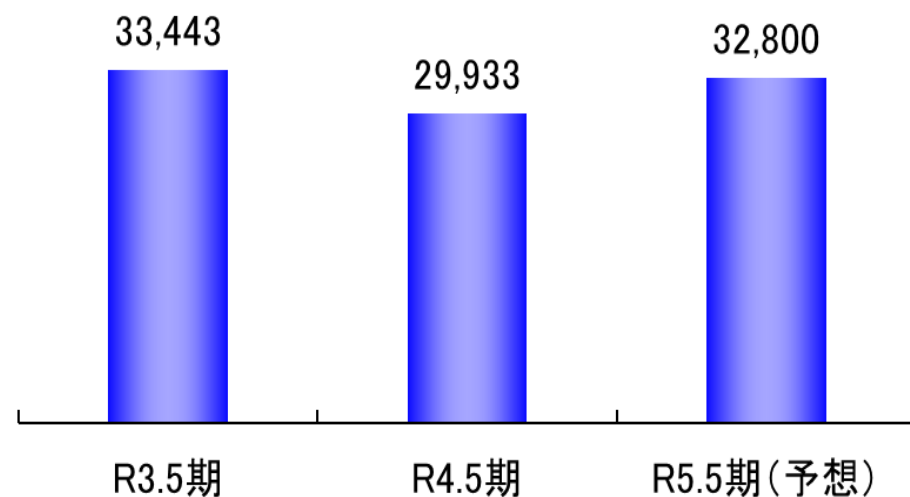
	R4. 5期 実績	R5. 5期 予想	前期比
受注高	29,933	32,800	+2,866
売上高	30,903	32,800	+1,896
営業利益	3,038	3,200	+161
経常利益	3,164	3,300	+135
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,142	2,200	+57

今期見通し

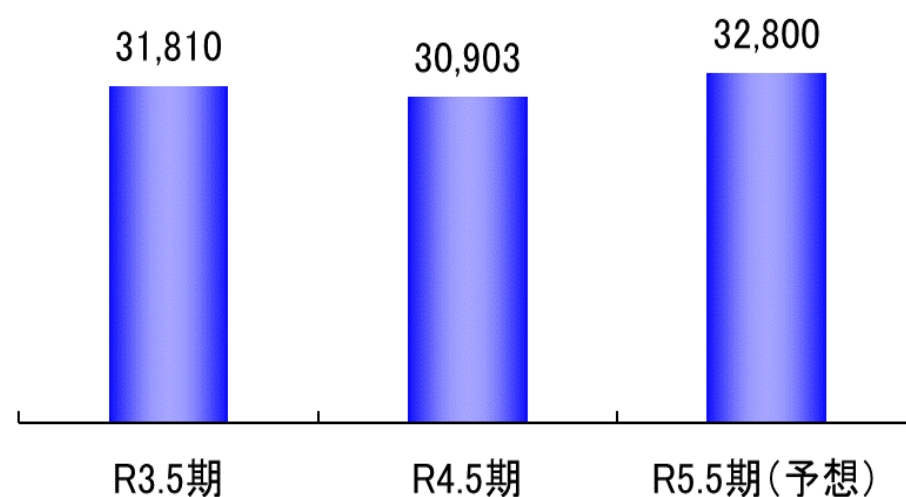
- 受注高は環境事業で 26.0億円増加、バルブ事業で 0.8億円増加、メンテナンス事業で 1.7億円増加。全体で 28.6億円増加。
- 売上高は受注残案件を着実に進捗させ、全体で 18.9億円増加。
- 営業利益は原材料価格高騰等の影響を見込むも、売上高の増加や製品販売価格改善等に取り組み全体で 1.6億円増加。

(単位:百万円)

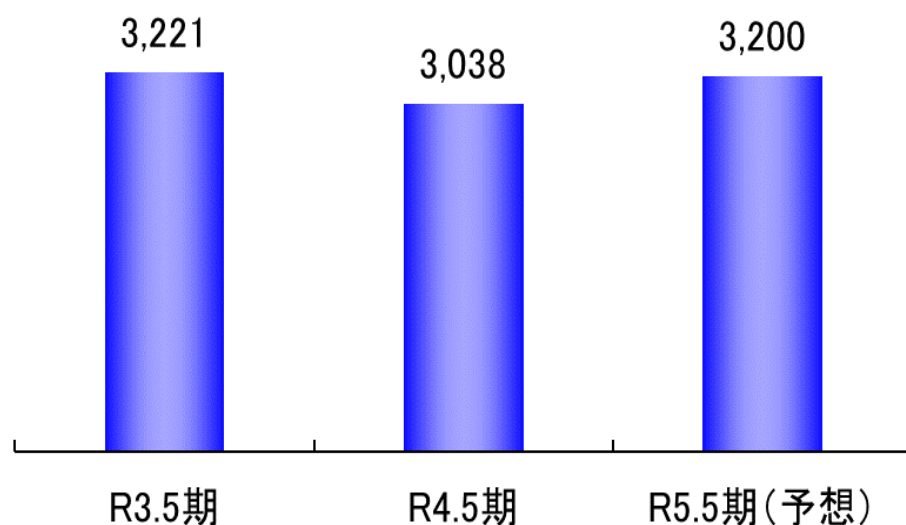
受注高



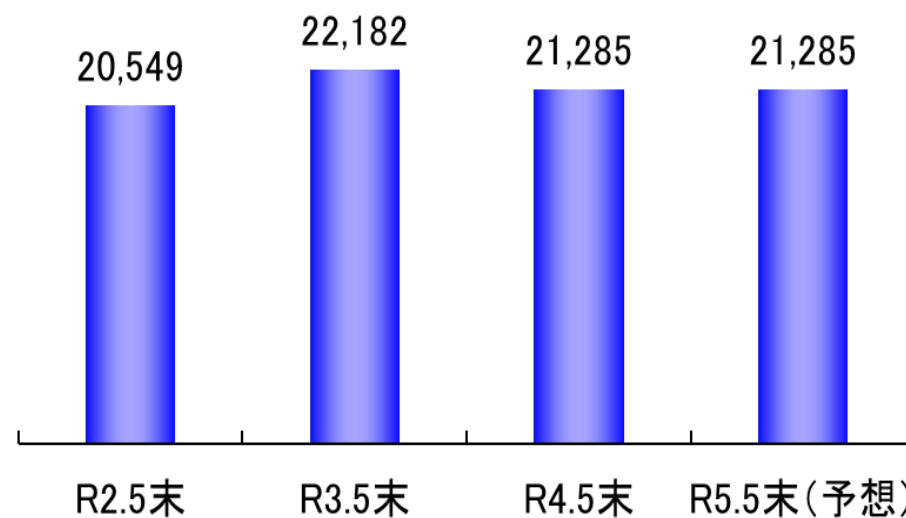
売上高



営業利益



受注残



(単位:百万円)

	R4. 5期 実績		R5. 5期 予想		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
受注高	29,933	100.0%	32,800	100.0%	+2,866	9.6%
環境事業	9,395	31.4%	12,000	36.6%	+2,604	27.7%
バルブ事業	10,116	33.8%	10,200	31.1%	+83	0.8%
メンテナンス事業	10,421	34.8%	10,600	32.3%	+178	1.7%
売上高	30,903	100.0%	32,800	100.0%	+1,896	6.1%
環境事業	10,443	33.8%	11,900	36.3%	+1,456	13.9%
バルブ事業	10,133	32.8%	10,200	31.1%	+66	0.7%
メンテナンス事業	10,325	33.4%	10,700	32.6%	+374	3.6%
セグメント利益	2,917	-	3,130	-	+212	7.3%
環境事業	104	-	110	-	+5	4.9%
バルブ事業	879	-	1,020	-	+140	16.0%
メンテナンス事業	1,933	-	2,000	-	+66	3.4%

今期見通し

環境事業

受注高は大型案件獲得を視野に入れ 26.0億円増加。売上高は今期受注及び受注残案件を着実に進捗させ 14.5億円増加。セグメント利益は過去の好採算案件が一巡したことにより利益率が低下し、利益横ばい。

バルブ事業

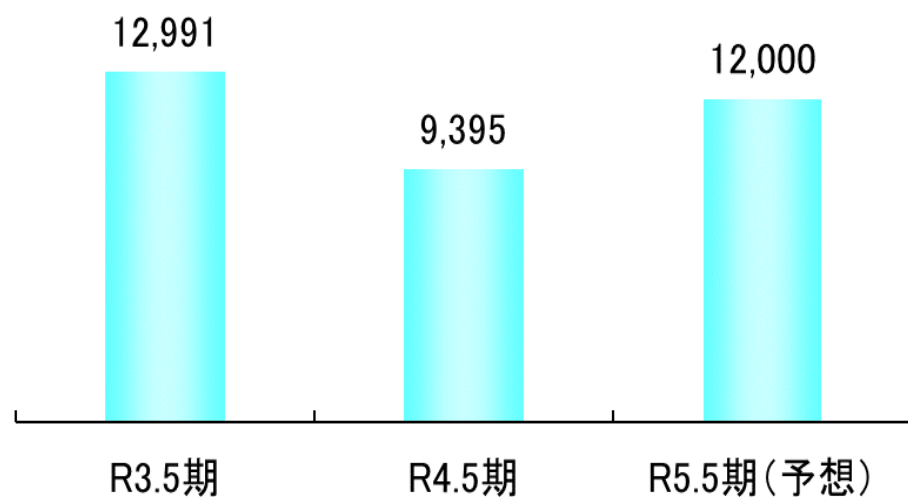
受注高は 0.8億円増加。売上高は 0.6億円増加。セグメント利益は原材料価格高騰等の影響を見込むも、製品販売価格改善等に取り組み 1.4億円増加。

メンテナンス事業

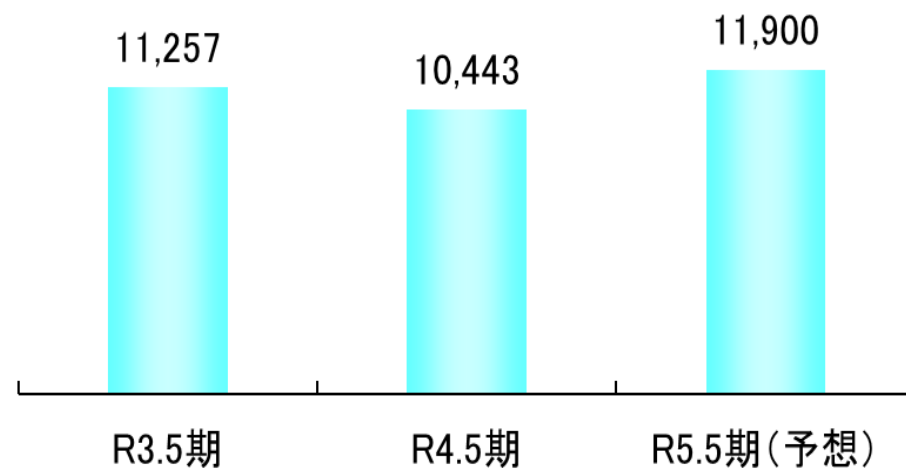
業績は堅調に推移し、受注高は 1.7億円増加。売上高は 3.7億円増加。セグメント利益は売上増加も好採算案件の一巡により利益率が低下し 0.6億円増加。

（単位：百万円）

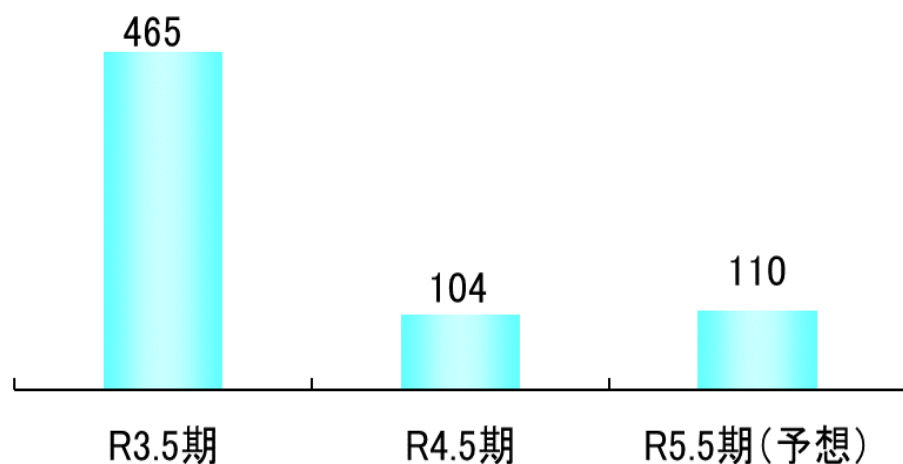
受注高



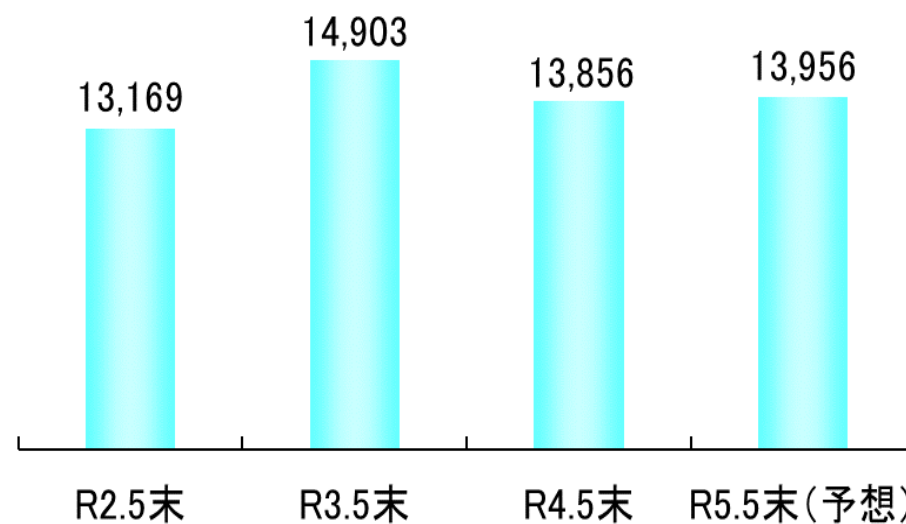
売上高



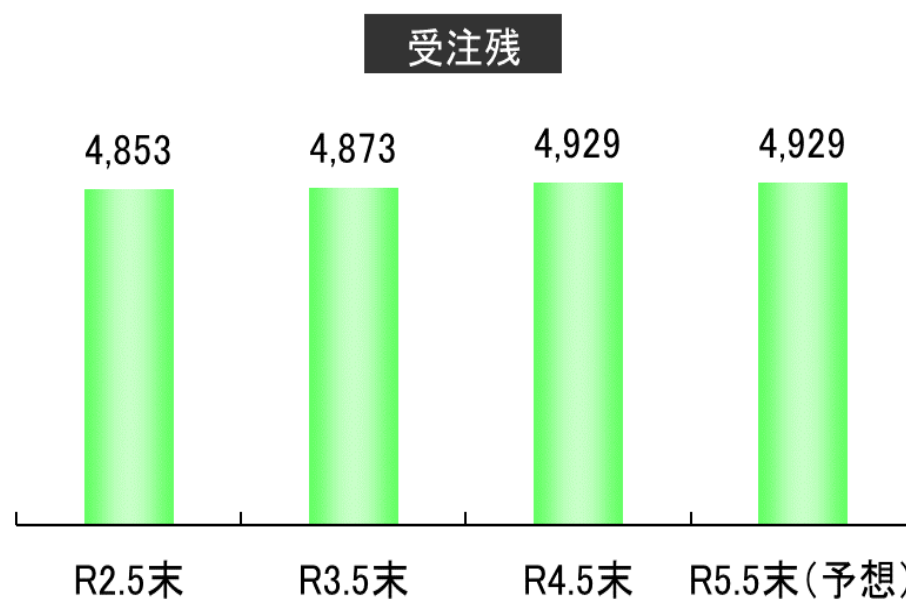
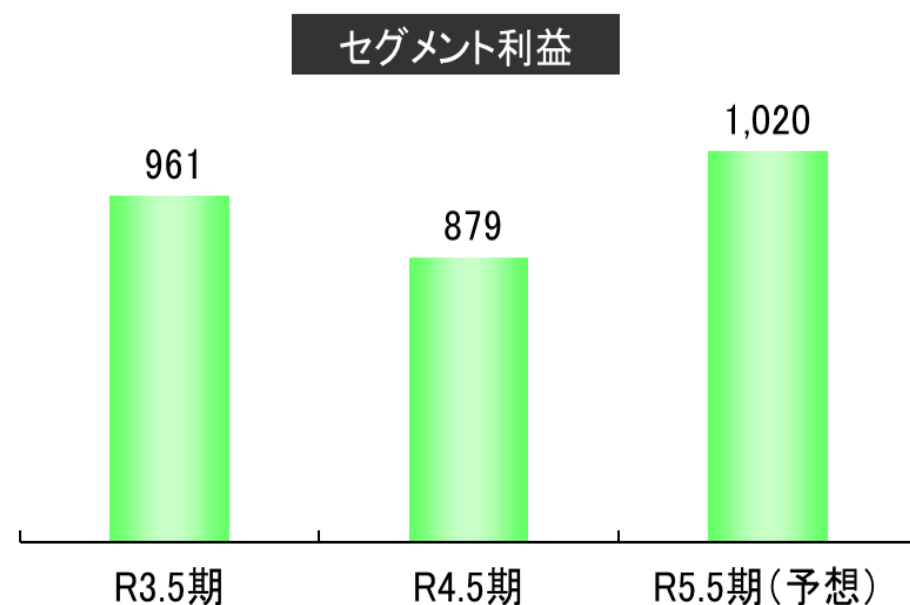
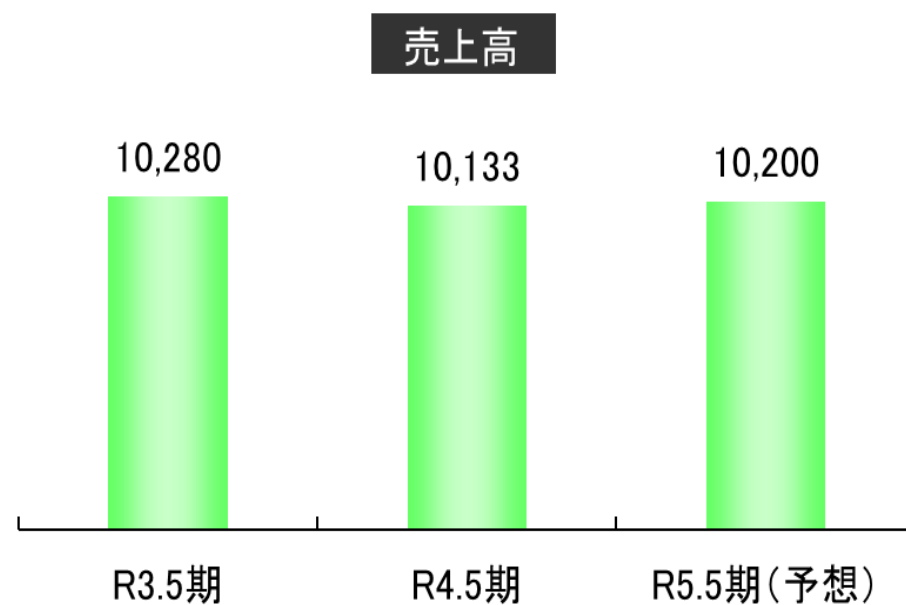
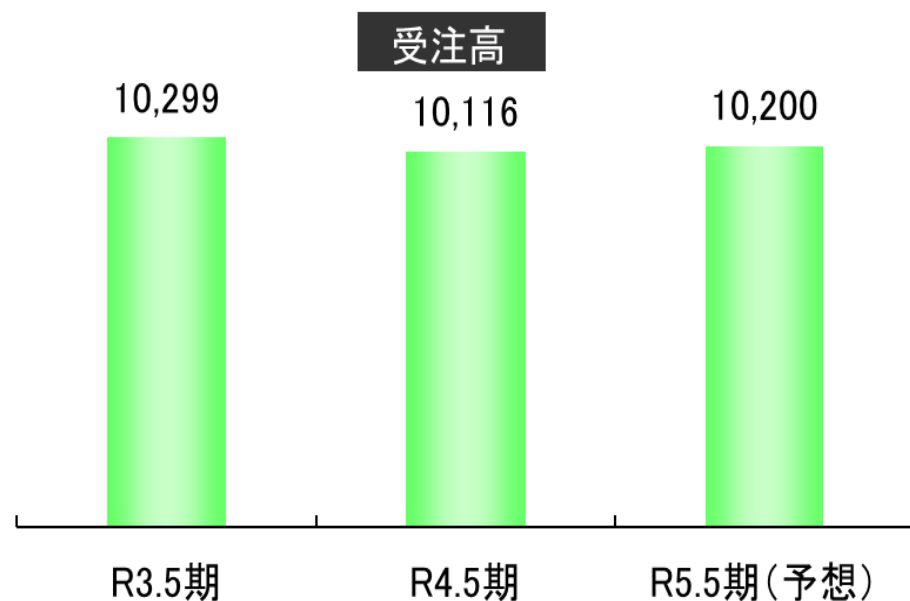
セグメント利益



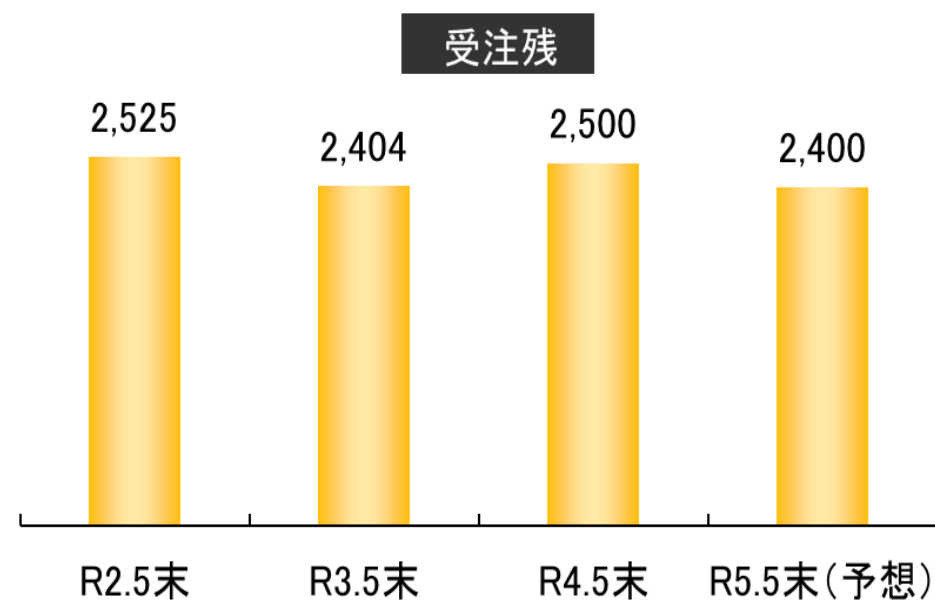
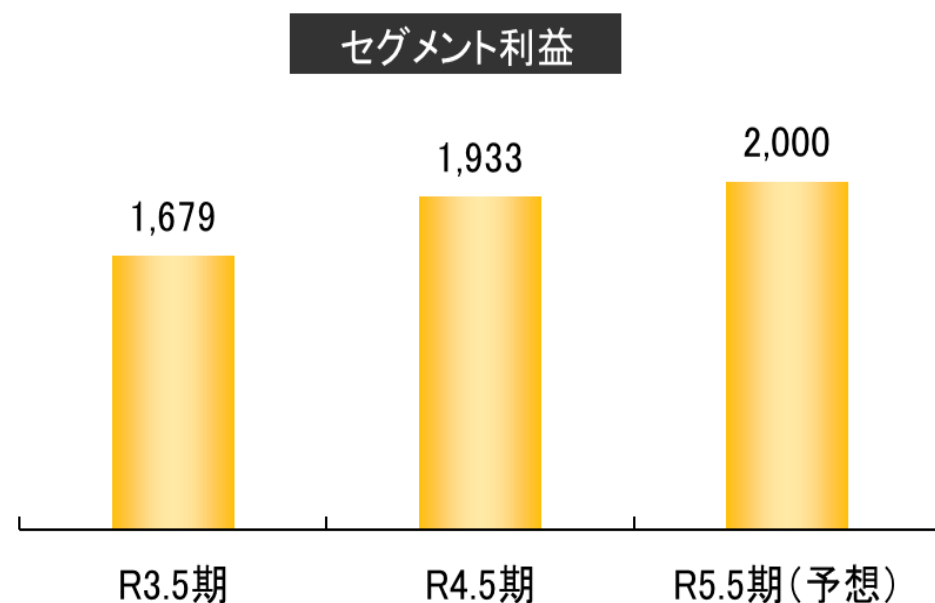
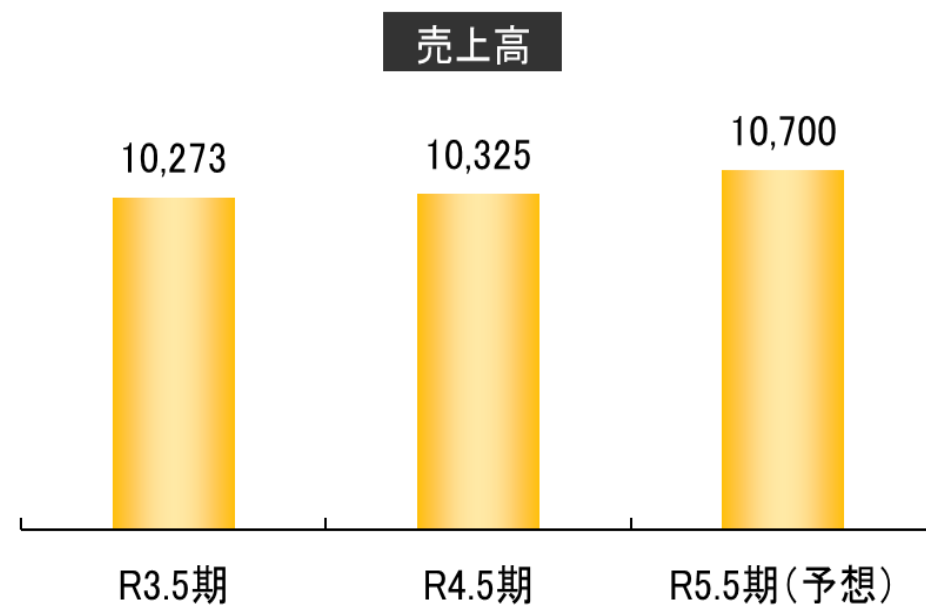
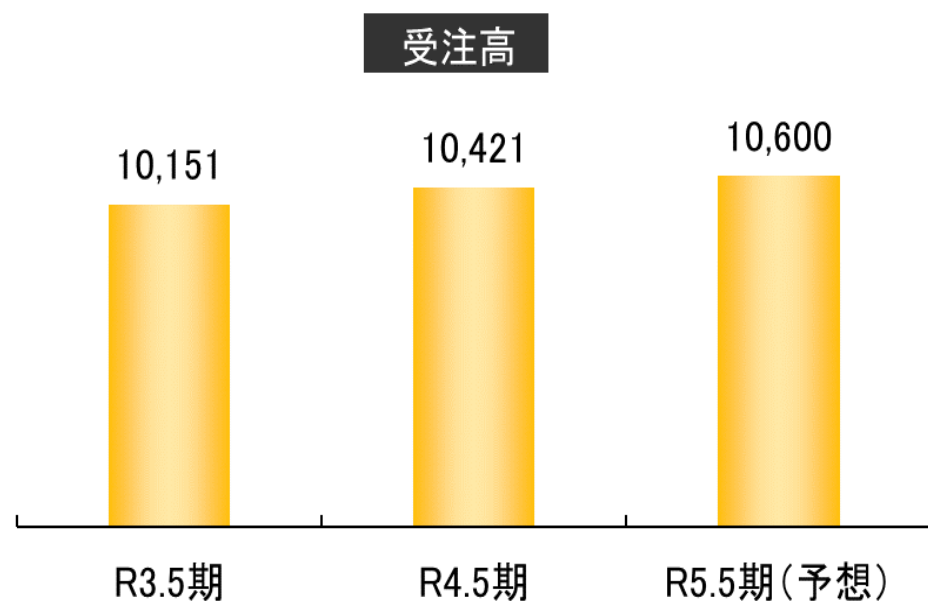
受注残

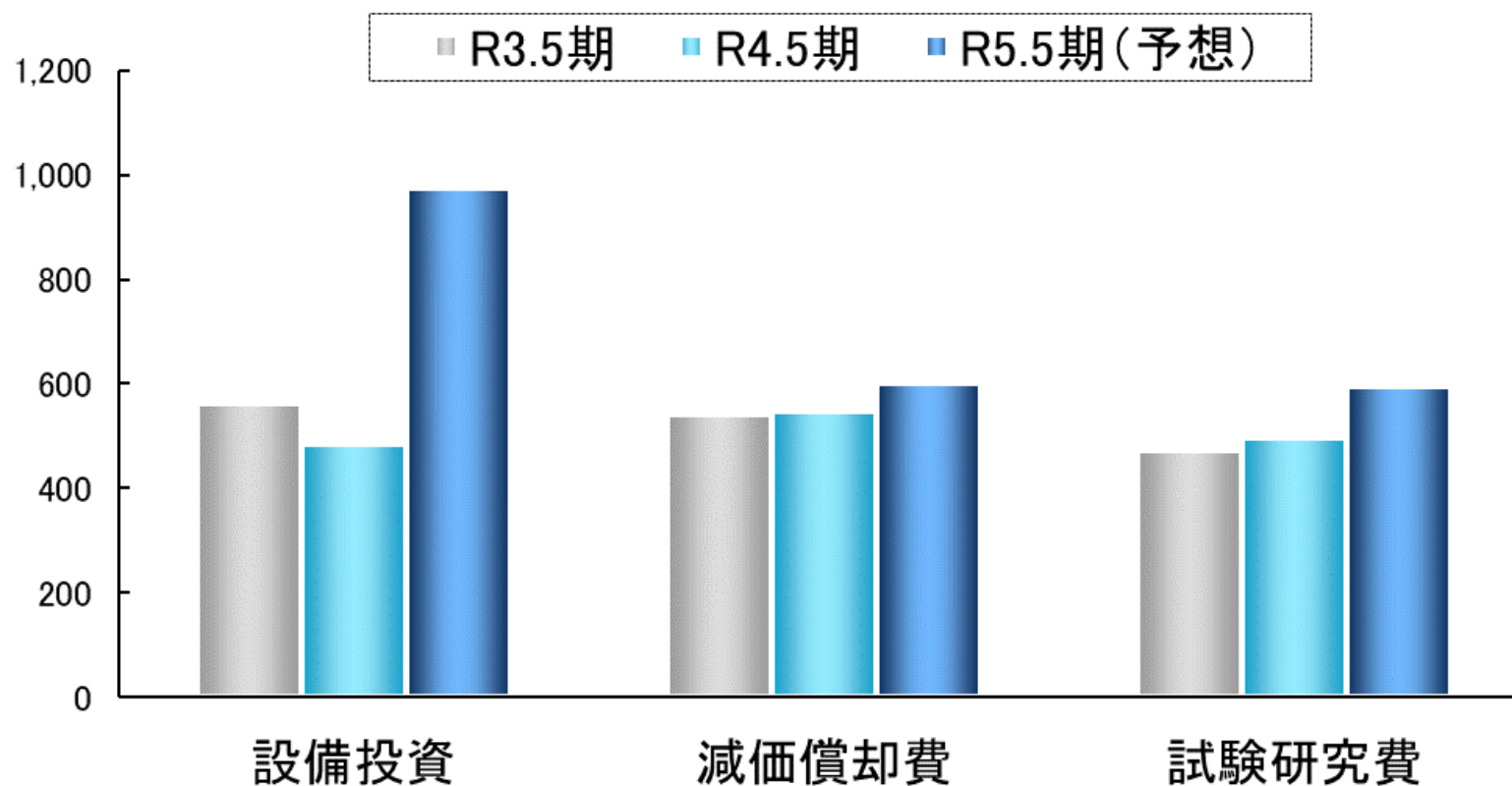


(単位:百万円)



(単位:百万円)



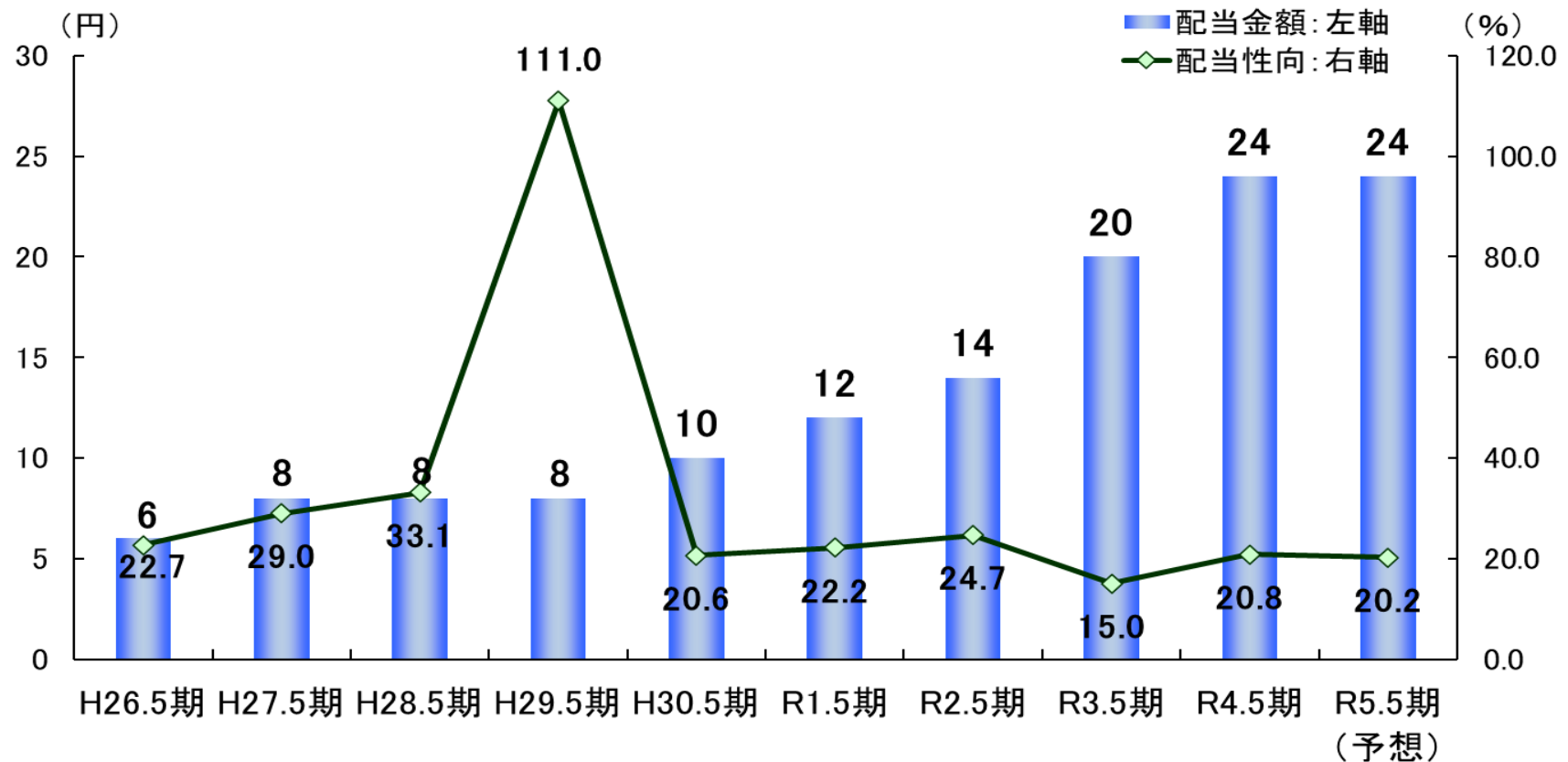


(単位:百万円)

	R3. 5期 実績	R4. 5期 実績	R5. 5期 予想
設備投資	563	486	956
減価償却費	541	548	602
試験研究費	473	496	594

- 配当性向30%を目安に、業績等を勘案し、継続的な配当を行う方針
- 内部留保については、経営基盤の充実ならびに将来の事業展開に活用

【 配当金推移 】



【 自己株式取得結果 】

令和4年5月期の自己株式取得

取得株式総数: 400,000株 (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 2.15%)

取得価額: 288,001,800円

取得期間: 令和3年7月27日から令和3年10月14日

I	企業概要	3
II	中期経営計画業績推移	11
III	令和4年5月期 決算概況	15
IV	令和5年5月期 業績予想	20
V	トピックス	29

当社の事業領域

1. 生活基盤としての上下水道に関する事業
2. 国土保全のための治水に関する事業
3. バイオマス、産業排水処理事業

当社事業領域における外部環境

【社会課題】

- 施設の老朽化、**更新需要の増大**
- 労働人口減少に伴う**人材不足**
- **自治体の財政逼迫**
- **自然災害の激甚化**
- **深刻化を増す地球温暖化**

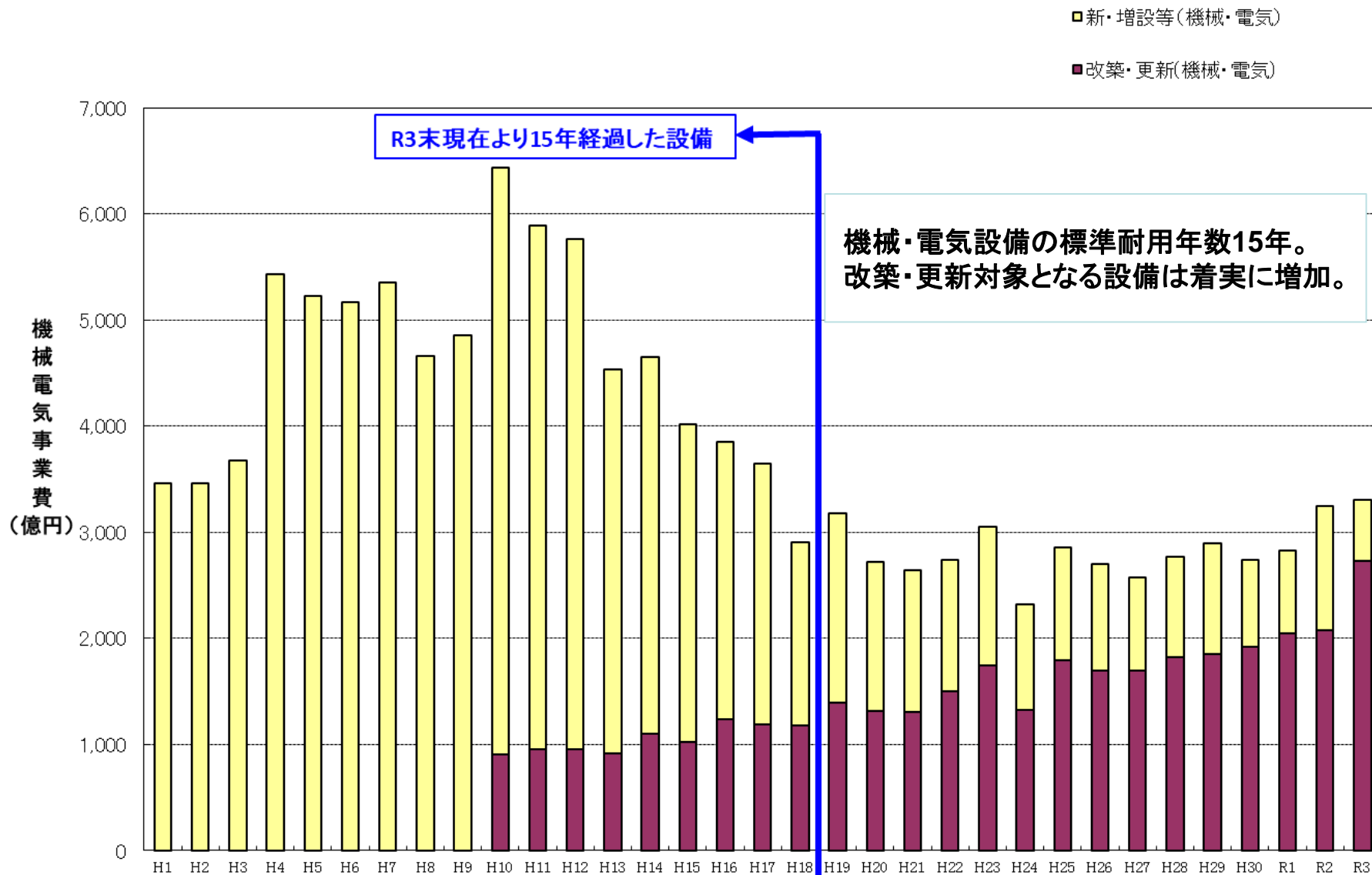
【社会動向】

- 広域化・官民連携の推進**
- 防災・減災、国土強靱化のための
5か年加速化対策**
- グリーン施策の推進**

中長期的な施策

- (1) **再エネ・省エネ技術の展開**
- (2) **官民連携への取り組み**
- (3) **海外展開**
- (4) **更新提案の強化**
- (5) **持続的な成長を支える経営基盤の強化**

下水道 機械・電気事業費及び改築・更新事業費の推移



※一般社団法人日本下水道施設業協会調べ



令和4年度のB-DASHプロジェクトに 「省エネ型深槽曝気技術」採択

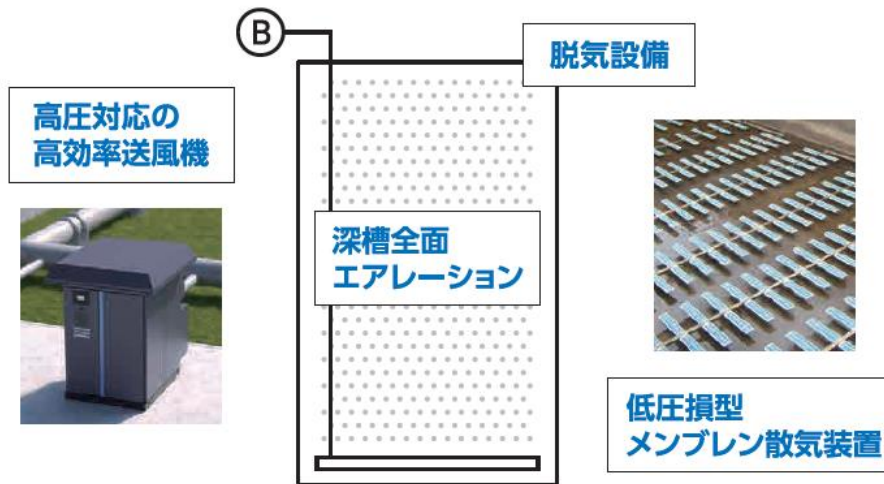
国土交通省が実施する「下水道革新的技術実証事業(B-DASH)プロジェクト」(※1)に
当社と日本下水道事業団、埼玉県の3者で「深槽曝気システムにおける省エネ型改築技術」が選定されました。
深槽反応タンクの底部に散気装置を設置する省エネ型深槽曝気技術について、
消費電力量および温室効果ガス排出量の削減やLCC(ライフサイクルコスト)の縮減効果、性能等を実証することにより実用化を図ります。

(※1) B-DASH「下水道革新的技術実証事業 (B-DASH) プロジェクト」とは
新技術の研究開発及び実用化を加速することにより、下水道事業における低炭素・循環型社会の構築やライフサイクルコスト
縮減、浸水対策、老朽化対策等を推進し、併せて、本邦企業による水ビジネスの海外展開を支援するため、国土交通省が実施している実証事業。

本技術の特徴

- ① 深槽全面エアレーションによる消費電力削減
- ② 散気装置の底部設置による建設費削減
- ③ 維持管理性の向上

酸素移動効率の倍増による
消費電力量および温室効果ガス排出量の削減



底部設置により
維持管理性の向上





アトラスコプコZSブロワ

高効率容積式スクリュブロワ

(公財) 日本下水道新技術機構 建設技術審査証明書取得



【効果試算】

年間電力費
約39百万円

30%削減

約27百万
約12百万円削減

試算条件：使用ブロワ：37KW（6台）
（計画処理人口：62,250人規模の下水処理場相当）、電力単価：20円/kwh

特長

省エネルギーを追求

小型軽量・省スペース 従来の約1/2

工期の短縮

高い部分負荷効率と広い風量制御範囲

維持管理性の向上

アトラスコプコZSブロワの導入例

- 宮崎県延岡市 ひとつがおか 一ヶ岡下水処理場
- 佐賀県 伊万里市 伊万里市浄化センター
- 福岡県 久留米市 中央浄化センター（2023年導入予定）
- 長崎県 長崎市 西部・南部下水処理所（2023年導入予定）

脱炭素社会に向け、日本政府も2050年までの実現を宣言している「カーボンニュートラル」の動きとともに再生可能エネルギーへの注目が高まっております。

当社の手掛けているバイオガスプラントは、家畜ふん尿や食品廃棄物等のバイオマス資源を電気・ガスに変換し有効利用することが出来ます。

バイオガスプラント竣工実績

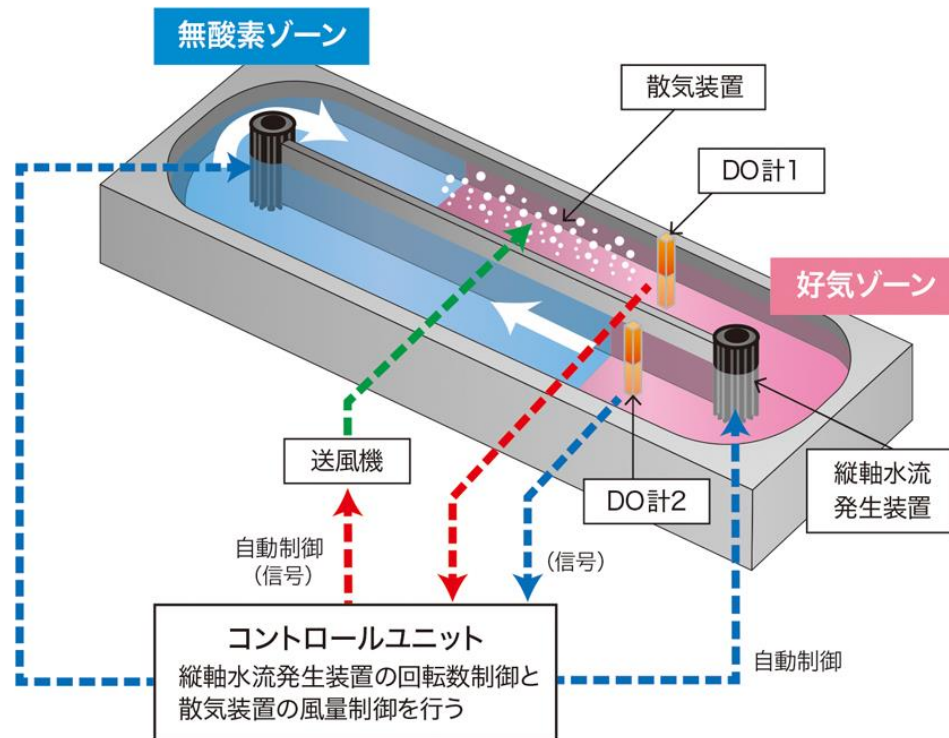
NO.	場所・施設	原料種別	発電機規格容量	竣工時期
1	山梨県富士河口湖町 ／富士ヶ嶺バイオセンター	乳牛・豚ふん尿	65kw×2台	2004年
2	静岡県伊豆市 ／天城放牧場バイオガスプラント	乳牛ふん尿／生ゴミ	30kw×1台	2005年
3	北海道士幌町 ／士幌バイオガスプラント	乳牛ふん尿	25kw×7台	2016年
4	沖縄県島尻郡八重瀬町 ／八重瀬町地域循環型バイオガスプラント	乳牛ふん尿	25kw×1台	2017年
5	北海道清水町 ／清水町美蔓バイオガスプラント	乳牛ふん尿	400kw×2台	2019年
6	北海道釧路市 ／釧路市有機質肥料活用センターバイオガスプラント	乳牛ふん尿	100kw×2台	2020年
7	某所 ／バイオガスプラント	食品残渣	550kw×1台	2020年
8	北海道釧路市 ／釧路市有機質肥料活用センターバイオガスプラント(増設)	乳牛ふん尿	計画値 150kW×1台	2023年 予定



OD法における二点DO制御システム

省エネと処理能力の増強を実現

平成26年度
日本下水道事業団
「新技術1類」取得



2021年12月に
岡山県真庭市落合浄化センターに
導入しました。



香南市夜須浄化センター
(高知県)



糸魚川市青海浄化センター
(新潟県)



全国7か所導入済み

全国の下水处理場 (2,152カ所) のうち
「OD法を採用している下水处理場は全国で1,029カ所」
(「平成25年度版下水道統計より」)

特長

1. 処理能力の増強が可能
2. 30%以上の消費電力削減
3. 自動制御で安定処理

【下記の課題解決をサポート】

1. 施設の統廃合による水量の増加
2. 人口減少による水量の減少
3. コスト低減・省エネ



平成27年度国土交通大臣賞 (循環のみち下水道賞)
グランプリ

公益社団法人日本水環境学会 平成27年度
技術賞受賞

科学技術振興機構2019年度 STI for SDGsアワード
優秀賞受賞



東京都小笠原村沖村浄水場（母島）（令和2年度稼働）

MIEX[®]による有機物除去システム

(公財) 水道技術研究センター技術評価制度認定第1号

MIEX[®]樹脂とは

帯磁性イオン交換樹脂（Magnetic Ion Exchange）**水中の溶存有機物の除去が可能**

導入効果

- ①オゾン発生時の電力量低減「MIEX[®]の導入により**30%程度削減**」
- ②凝集剤使用量の低減「MIEX[®]の導入により**30%程度削減**」
- ③活性炭の寿命延長「**約2倍に延長可能**」
- ④トリハロメタン、ハロ酢酸、色度対策等「**有機物低減に効果的**」

MIEX[®] 処理システムの導入例

- ・東京都小笠原村（父島）扇浦浄水場
 - ・東京都小笠原村（母島）沖村浄水場
 - ・兵庫県佐用町奥海浄水場
 - ・山形県食肉公社
- 現在、大規模浄水場への適用に向けたプラント実験を実施中

国内の上下水道では、民間企業の技術、経営ノウハウおよび人材の活用により、公共サービスの向上と基盤の強化を図る官民連携が進められています。

現在遂行中の主な物件

事業名	方式	自治体	概要
<small>おおふなと</small> 大船渡市簡易水道施設 運転管理業務	O & M	大船渡市都市整備部 (令和2年4月～)	・膜ろ過施設5か所(当社施工)を含む浄水場7か所と配水池、ポンプ所など41ヶ所、計48ヶ所の水道施設の運転管理
利根川右岸流域下水道 維持管理包括委託	O & M	埼玉県下水道局 (平成30年～)	・小山川水循環センター(施設能力3万m ³ /日)の包括的業務委託
<small>おとがわ</small> 男川浄水場更新事業	PFI	岡崎市上下水道局 (平成29年～)	・岡崎市の約半分の地域に給水する男川浄水場(施設能力68,395m ³ /日)の設計・建設・維持管理
<small>かきのき</small> 柿木浄水場維持管理委託	O & M	埼玉県企業局 (平成27年～)	・埼玉県南部工業用水道事業、柿木浄水場(施設能力17万5千m ³ /日)の包括的業務委託
大久保浄水場排水処理 施設等整備・運営事業	PFI	埼玉県企業局 (平成19年～)	・埼玉県の基幹浄水場である大久保浄水場(施設能力130万m ³ /日)排水処理施設の設計・建設・維持管理および浄水発生土有効利用
<small>よこせ</small> 横瀬町水質管理センター 等維持管理業務委託	O & M	埼玉県秩父郡横瀬町 (平成19年～)	・好気性ろ床法(処理能力1,400m ³ /日)・汚泥脱水作業、MP場(22機場)を含む運転維持管理業務
<small>てらどまり</small> 寺泊浄化センター維持管 理業務委託	O & M	新潟県長岡市 (平成18年～)	・OD法(処理能力1,650m ³ /日)、汚泥脱水作業を含む運転維持管理業務
<small>とや</small> 鳥屋浄水場他運転管理 業務委託	O & M	神奈川県企業庁 (平成16年～)	・凝集沈澱・急速ろ過、膜ろ過施設の運転維持管理

- ・高機能、高品質、省エネ、低環境負荷を強みとする製品、技術

バルブ・環境製品

- 流量制御弁等高機能製品
- ライフサイクルコストに優れるユニットピンラック

水処理技術

- PTFE製MF膜(ハイブリッド膜処理システム、省エネ型高度処理MBR)
- 二点DO制御(省エネ型高度処理OD法、省エネ型高度処理への改造)

■直近の主な納入実績

- ・ODAベトナムハノイ市エンサ下水処理場沈砂池機械

(処理水量270,000m³/日・対象人口:90万人相当)

流入ゲート×2門、粗目自動除塵機4台、細目自動除塵機3台(ユニットピンラック) 他

タイにおける工業用水供給事業の検討

■東部経済回廊(EEC)の開発

- ・タイでは東部三県を新経済特区とするEEC政策により長期的な陸海空におけるインフラ整備事業の推進と連携して、地域の工業地帯では医療系やIT系などの次世代企業の誘致計画が進められている。
- ・一方、EEC地域の工業団地のため池などから取水する原水は色度、濁度が高く、雨季と乾季の変動も大きい。これを効率よく安価に高度処理して年間を通じて安定供給できれば高品質の水を必要とする次世代産業のニーズを捉え、工業団地の高度化、ハイテク化に貢献する用水事業としての発展が見込まれる。



■NEDO事業を活用して事業化を検討

- ・「エネルギー消費の効率化等に資する我が国技術の国際実証事業」(実証前調査)に採択された。安定的に高品質工業用水を提供し、供給エリアでの水処理エネルギー削減効果を示し、高品質かつ省エネ性・低環境負荷の両立を目指す。
- ・EEC地域のアマタシティーチョンブリ工業団地(スマートシティ開発地域)における事業化を行っているもので、今後実証前調査を行い、「実証事業」を目指します。

R2.8~R3.9

今年度採択

実証要件
適合性調査

実証前調査

実証事業



ゲート不断水工法

今まで水を止めることができず更新が難しかったゲートを不断水で更新

■ 特長

【工法①】 インナーチューブ工法

インナーチューブを用いてバイパスを確保する事で、不断水・常時通水施工・作業場所のドライ化を実現する工法

【工法②】 SCプラグ工法

特殊プラグを用いてバイパス水路を構築する事で、不断水・常時通水施工・作業場所のドライ化を実現する工法

【工法③】 封水タンク工法

対象となるゲートの周りを封水タンクで囲み、作業領域を確保する事で最小限の水替えで更新を行う工法。



インナーチューブ接続中



バイパス接続中

更新マディハイバルブ 更新仕切弁 更新バタフライ弁

■ 特長

- ・工事工程の削減によるコスト圧縮
- ・粉体塗装、ゴムライニングによる優れた耐食性
- ・更新時、新設時に伸縮継手不要
- ・既設弁を容易に交換可能



更新マディハイバルブ



更新仕切弁



更新バタフライ弁

更新対応型ゲート

■ 特長

- ・ 鑄鉄製ゲートをそのまま更新
- ・ 鑄鉄の特徴である剛性を活かし、戸当り分割式とすることで不断水による更新も可能
- ・ 更新対応型を採用することで次回更新の際には土木構造物を研らず短期間で交換が可能



維持管理業務の効率化と高濃度排泥を可能とするレシプロ式汚泥掻寄機

(公財) 水道技術研究センター 「水道施設の点検を含む維持・修繕に関する新技術事例集 (Aqua-LIST)」 掲載



《レシプロ式汚泥掻寄機》

特長

優れた耐久性

高い耐震性

維持管理が容易

優れた応答性

単純な土木構造

《高濃度排泥装置》

特長

高い排泥効果

排泥弁設置台数の低減

単純なピット構造

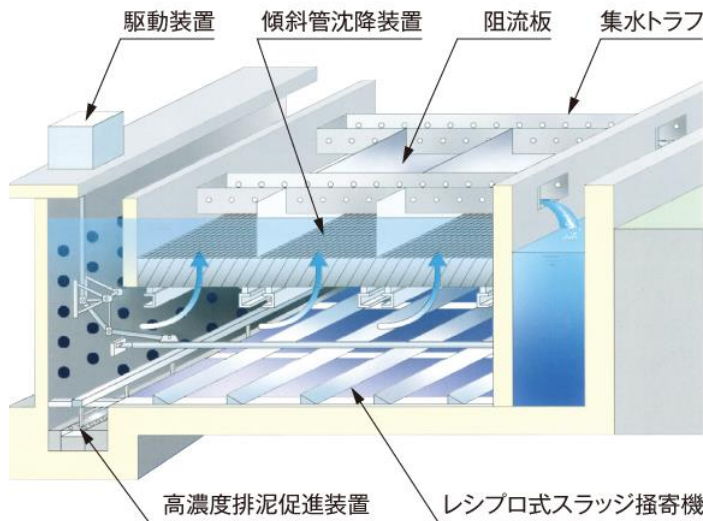
圧力水噴射装置が不要

《レシプロ式汚泥掻寄機+高濃度排泥装置》

導入効果

維持管理コスト低減

「レシプロ式汚泥掻寄機と高濃度排泥装置の組合せ例」



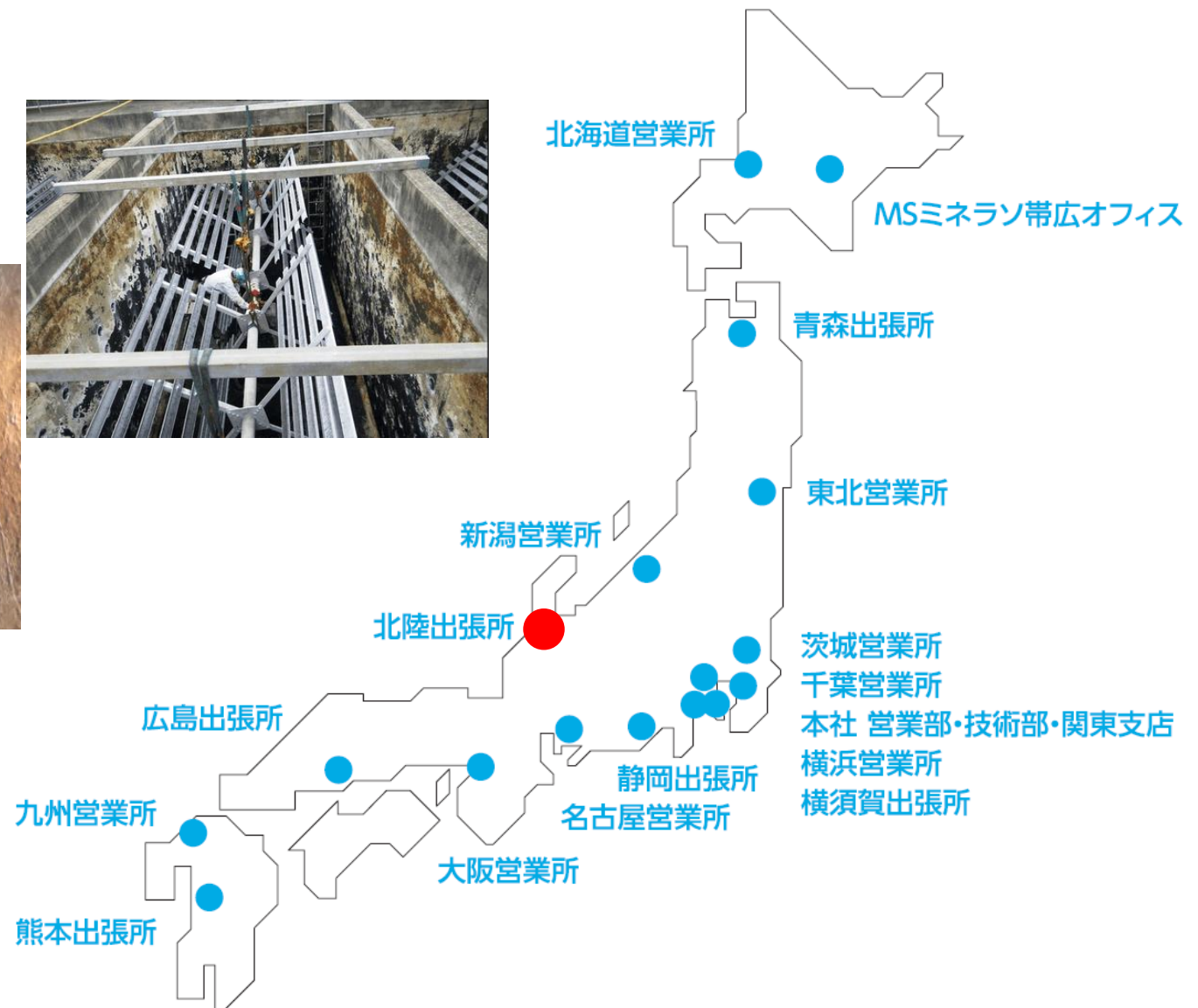
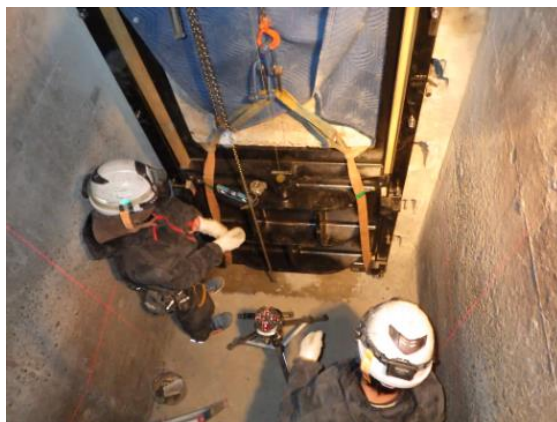
導入実績

レシプロ式汚泥掻寄機は全国14浄水場にて67基を納入、うち29基に高濃度排泥装置を設置



メンテナンス事業拠点強化

緊急修繕など迅速な対応が求められる中、顧客の期待に応えられるよう、子会社である前澤エンジニアリングサービスの営業拠点を増やして参りました。今年新たに、金沢市に北陸出張所を出店致しました。



当社とSDGsの関わり

当社はこれからも水関連企業、さらに環境関連企業として
社会インフラの構築などの事業活動を通じて、社会の持続的な発展に貢献してまいります。

経営理念 水とともに躍進し人間らしさをもとめ
社会に貢献できる魅力ある企業

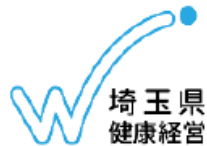


「埼玉県SDGsパートナー登録」

当社として「埼玉県SDGsパートナー」の趣旨に賛同し、SDGs達成に向けた具体的な取り組みを共に推進すべく登録を致しました。



多様な働き方実現への取組み



2022年5月 埼玉県健康経営制度「健康経営実践事業所」の認定取得

健康で生き生きと暮らすことができる健康長寿社会の実現を目指し、事業所における従業員等の健康に配慮した経営を促進するため、健康経営に取り組む事業所・団体を埼玉県が認定する制度です。下記4項目を満たし認定されました。

- ① 社員の健康課題の把握の必要な対策の検討
(健康診断未受診者への受診勧奨、ストレスチェックの実施)
- ② 健康経営の実践に向けた環境整備
(有給休暇取得促進、定時退社日設定等)
- ③ 従業員の心と体の健康づくり
(特定保健指導、感染症予防、労働時間把握、メンタルヘルス相談窓口設定等)
- ④ その他任意取り組み
(人間ドック受診勧奨、シニア活動推進、多様な働き方実践等)



2018年 3月「シニア活躍推進宣言企業」の認定取得

「シニア活躍推進宣言企業」とはシニアの活躍の場の拡大のための取り組みを実施している企業を埼玉県が認定する制度です。

「①シニアが安心して働ける環境を整える②シニアの技術・経験を生かす③シニアの能力を伸ばす④福利厚生を充実する」の4項目を満たし認定されました。

また当社では、2018年6月に社員が60歳以降も安心して働けるよう定年年齢を65歳に引き上げました。



2018年12月「多様な働き方実践企業」プラチナ認定取得

「多様な働き方実践企業」は、男女がともにいきいきと働ける環境づくりに取り組んでいる企業を埼玉県が認定するものです。

2014年に取得したゴールド認定を更新し、法定を上回る制度の充実(時間単位有給休暇、看護・介護休暇を出勤とみなすこと、積立有給休暇制度)に加えて、製造業の平均を上回る女性管理職比率の達成および「えるぼし」認定の取得が評価され、プラチナ認定にステップアップいたしました。



2017年11月「えるぼし」企業(3つ星)に認定

「えるぼし」認定は、女性の活躍推進に関する取組みの実施状況等が優良な企業を厚生労働大臣が認定する制度です。

認定における5つの評価項目は、「①採用 ②継続就業 ③労働時間等の働き方 ④管理職比率 ⑤多様なキャリアコース」から成り、これらの項目全ての基準を満たし、3段階目の認定を取得いたしました。



企業活動における 再生可能エネルギー利用



令和4年6月より、グリーンベーシックプラン(※1)を導入いたしました。

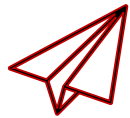
これにより、当社主要拠点である、本社(ATC)、埼玉製造所などでの企業活動を通じて使用する電力において、再生可能エネルギー由来の電力を使用することとなります。

年間の電力使用量と排出係数により算出したCO₂排出量(令和2年度)

	電力使用量 (kWh)	排出係数 (t-CO ₂ /kWh)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
埼玉製造所	5,827,000	0.000495	2,884
本社	736,000	0.000495	364

※1グリーンベーシックプラン

東京電力エナジーパートナー株式会社が提供する、実質的にCO₂排出量がゼロとなる太陽光・風力・水力その他の再生可能エネルギー由来の電力を供給するプラン



「埼玉発世界行き」冠奨学金



感謝状贈呈式

海外へ挑戦する若者を応援することを目的とした2022年度「埼玉発世界行き」冠奨学金制度に協賛しており、2022年5月10日(火)に埼玉県と(公財)埼玉県国際交流協会主催の「埼玉発世界行き」冠奨学金感謝状贈呈式が埼玉県知事公館で行われました。

2020年度冠奨学金制度を利用した奨学生は、コロナの影響の為留学が延期となっていましたが、2022年1月に渡航致しました。引き続き将来に向けた人材育成支援活動を行って参ります。



災害時協定



埼玉県のほか全国の地方自治体、地方公営企業及び一般社団法人と災害時における調査・復旧工事や資材供給等の災害時協定を結んでいます。(締結数:48団体 2022.5.31現在)

地域との連携



青下の杜プロジェクトに参画



仙台市「青下の杜プロジェクト」(※1)に関する協定を締結し、前澤化成工業(株)、前澤給装工業(株)とともに活動エリアである「みずのわの杜」において官民連携による水源保全に取り組んでいます。

2022年5月21日に活動の一環として、森林保全活動としてコナラやクヌギなどの植樹を行いました。

※1…「青下の杜プロジェクト」は仙台市の水道資源の一つである青下水源地において、民間企業と仙台市が連携して水源かん養林の保全・育成を行う取り組みです。



災害用備蓄品2,760食分を寄付

埼玉製造所で保管している災害備蓄品の「サバイバルパン」「そのままご飯」合わせて2760食分を、2022年2月1日にNPO法人フードバンク埼玉様へ寄贈しました。寄贈した備蓄品はフードパントリーや子供食堂、福祉施設などで活用されます。





Maezawa Industries, Inc.

注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【本資料に関するお問い合わせ先】

前澤工業株式会社 経営企画室

Tel : 048-251-5511 Fax : 048-251-9375

E-mail : prir_info@maezawa.co.jp